

2021年3月期 第3四半期決算説明(電話会議) Q&A サマリー

Q:国内の東北、春日井、四日市工場と海外のCKD中国工場の現在の状況

A:東北工場は、需要増加を受けて稼働が上がってきております。春日井工場の稼働は高い水準が続いております。空気圧機器を生産している四日市工場も高い水準が続いております。CKD中国工場は中国市場で製造業の生産活動の正常化が進んでおり、高い稼働状況です。

Q:工場の生産能力

A:工場の生産能力にはまだ余裕があります。現在は、通常の1勤体制に一部ラインの2勤体制を取って対応しております。

Q:機器の利益率が改善してきた要因

A:原価低減の取り組みを継続し、固定費の削減、生産性の改善などを推し進めており、設備の自動化や省人化の効果が表れてきたと考えております。

Q:機器4Q予想 3Q実績と比べて、売上の伸びに対し、利益の伸びが控えめな要因

A:4Qは年度末であり、決算調整を考慮した予想としているためです。

Q:半導体投資環境をどのようにみているのか

A:メモリー向けは2Qに遅延し、4Qから上がってくるとみておりましたが、3Qに設備投資が再開され、回復してきました。ロジックは引き続き堅調に推移しており、現時点で、この状況は来期1Qまでは続くとみております。

Q:自動車の製造設備の状況をどのようにみているか

A:自動車メーカーの生産は回復していると認識しております。設備投資は回復基調ですが、徐々に案件が出てきており、対応しています。

Q:中国市場への今後の対応

A:CKD中国工場では、既存の生産棟で稼働しているクリーンルームにて流体制御機器を生産しております。また、新生産棟にはクリーンルームを増床するスペースを確保しております。中国半導体市場の拡大にしっかり対応してまいります。空気圧機器は、中国の自動化投資も進み、高精度・高品質の商品をお求めになるお客様も多くなってきており、事業を広げていきたいと考えております。引き続き、現地調達なども含めたコスト低減に取り組んでいきます。

Q:北米新工場 現在の準備状況

A:北米新工場は、建物は既に建っていて入居していない物件を購入しております。現在はコロナ禍のため、現地のスタッフとリモートでやりとりしております。そのため、当初の計画に対して若干遅れが生じています。

Q:自動機械 薬品包装 引合い状況

A:足元の状況は、国内のジェネリック・受託メーカー様からの引合いが出てきております。

Q:自動機械 リチウムイオン電池用巻回機の見通し

A:リチウムイオン電池用巻回機は国内中心に活動しております。少しずつですが引合いをいただいています。

Q:自動機械 3次元はんだ印刷検査機の状況

A:3次元はんだ印刷検査機は、3Qに入り電子基板関連の需要も動きはじめ、復調してきております。

Q:自動機械 業績の見通し

A:新型コロナウイルス感染拡大の影響で、予定していた物件の検収がずれ込むなどの影響が出ております。
ただ、足元の引合いは増えてきている状況です。

Q:人員の変化

A:1年前と比べて、需要に合わせ増やしておりますが、適正な人数です。今後も柔軟に対応してまいります。

Q:今後の利益率改善の見通し

A:生産能力は確保できておりますので、需要が回復し、経費をコントロールしながら稼働を上げていくことにより、利益率が改善するように努めてまいります。